

請願第4号

2020年6月23日

「樋口季一郎・杉原千畝について書かれた教科書の採択」に関する請願

町田市教育委員会教育長 様

住 所
連絡先
氏 名



(請願の趣旨)

迫害されたユダヤ人を救った、樋口季一郎や杉原千畝の「人種平等の理念」「人道問題優先」の行為について書かれた中学校社会科（歴史）の教科書を採択していただきたい という請願

(請願の理由)

1. 緊迫した国際情勢の中で、日本(日本人)が他国やその人々の生命や権利に関わる出来事に遭遇したとき、人々を救済する措置を取り、当事国から感謝されるという事例がいくつもあります。歴史の学びの中で、日本(日本人)がとった行動を、「罪科あり」「自虐」の姿勢で書き並べるのではなく、日本人の先達がとった「博愛」「人道主義」「勇気」の例を学んでもらうことが必要です。以下に掲げる樋口氏、杉原氏、その他多くの日本人関係者がいたことを、若い人にきちんと教えていく姿勢を持った教科書をぜひ採択していただきたいと思えます。
2. 1938年、満州に駐在のハルビン特務機関長、陸軍少将・樋口季一郎が、シベリア鉄道オトポール駅に逃げてきたユダヤ人2千人（同氏が『回想録』に残した数字）に特別ビザを発行して、満州経由で逃避のルートをつけてやった「オトポール事件」。これは彼の勇断であるとともに、日独同盟の中にもドイツの抗議をやり過ごして樋口を支持した上官の判断と共に、日本が「人種平等の理念」から、窮地に立ったユダヤ人の救済に動いた好例です。
3. 第二次世界大戦勃発後の1940年、安全な国に逃れようと、日本経由のビザを求めて在リトアニアの日本領事館に集まってきたユダヤ人6千人に、外交官・杉原千畝が日本政府の明確な承認が得られないまま、「人道的処置」として、当時支配していたソ連に領事館の撤去を求められた限られた期間に、懸命にビザを発給し続けました。
4. 戦後、イスラエル政府はこの2人に感謝状を出すなどして日本にも、国際社会にも知られるようになります。混乱のさなかにあって、国際間の盟約関係、日本政府の態度不鮮明のなかでも、迫害されてきたユダヤ人を「人道問題優先」の見地から、困難な状況を押しつけて2人がとった行為は賞賛されるべきものです。当時の日本人がとった行動は、後の世まで歴史として語り継がれて欲しい出来事です。

以上